

平成29年度

南アルプス市障害者自立支援協議会報告書

平成30年3月

南アルプス市障害者自立支援協議会

はじめに

今年度は、年度末に障害福祉サービスの大幅な改定が行われました。相談支援や働くことの定着に向けた支援、一人暮らし等を細目にサポートする支援、医的ケアの必要な子どもさんへの支援、介護保険のサービスとの相互乗り入れ・・・などなど。今まで制度の狭間とされてきた方々や、日本のあちこちで「こんな支援があったらいいな」という地域福祉課題が元となり、新たな制度やサービスが取り入れられたと云えます。

今年度、本市協議会においては、親亡き後も安心した暮らしを継続出来るよう、地域をあげて支援体制を整える地域生活支援拠点の話題に本格着手し、相談支援体制の新たな見直しに着眼点を置き、取り組みました。障害福祉計画については、地域の支援者が集い、この市での支援の在り方や課題について真剣に考え、計画作りにご協力をいただきました。地域移行部会や権利擁護部会も、昨年度の動きを更に深め、この動きが入院先で退院をしたい方や、日々支援に取り組んでいる支援者の元へ届くようになってきました。

個別の課題を地域の福祉課題として捉え、協議会で吟味検討し、また個別の支援に還元していくというスパイラルが幾重にも広がっていけるよう今後も取り組みます。

平成 29 年度の自立支援協議会報告書を皆様にお届けいたします。今年度の協議会へのご協力に感謝し、更に協働いただけますようよろしくお願い致します。

南アルプス市障害者自立支援協議会会長 鴨作 光昭

目次

南アルプス市障害者自立支援協議会について	2
地域の解決困難事例から展開する自立支援協議会<図>	3
平成29年度南アルプス市障害者自立支援協議会体制図	4
協議会ダイジェスト	
定例会	6
専門部会 権利擁護部会	7-8
専門部会 地域移行部会	9-10
専門部会 障害福祉計画部会	11-12
専門部会 地域生活支援拠点部会	13-14
連絡会 計画相談支援事業所連絡会	15
連絡会 居宅介護事業所連絡会	16
障害福祉サービス事業所合同説明会	17-18
障害者施策推進協議会	19-20
年間スケジュール	21

南アルプス市障害者自立支援協議会について

●障害者自立支援協議会とは

南アルプス市で暮らしている方で、障害や病気のある方（当事者）が地域での生活を送るうえでは、「必要な制度や福祉サービスの不足や使いにくさ」「必要な情報が届いていない」等の課題があります。また、当事者の地域生活を支える支援者においても、当事者のよりよい生活の実現を目指す中で、地域に必要な支援体制が整っていないために「すぐには解決できない」課題に直面することがあります。

南アルプス市障害者自立支援協議会は、このような課題を地域の福祉課題として取り上げて、様々な立場の支援者が解決に向けて話し合う場です。

※参考 図：地域の解決困難事例から展開する自立支援協議会 p 3 掲載

●実施体制

次の4つの形態の会議で構成され、市障害福祉課と障害者相談支援センターが事務局を務めています。

- | | | |
|--------|---------------------------------|--------|
| 「定例会」 | 地域の関係機関の実務者による地域の福祉課題の解決に向けた協議 | （定期開催） |
| 「運営会議」 | 正副会長と事務局による地域の福祉課題の整理や協議の方向性の確認 | （定期開催） |
| 「専門部会」 | 定例会で協議された課題等に対する具体的な取り組みの場 | （随時開催） |
| 「連絡会」 | 同種の事業所間による情報共有やネットワークづくりの場 | （定期開催） |

各会議が相互に連動することで協議会は活性化し、当市の障害者相談支援体制の充実に結びつきます。言い換えれば、当事者が「その人らしく、よりよく生活する」ことの実現の鍵は、自立支援協議会が活発に動くことです。また、協議会で話し合われたもので、施策化が必要となるものは障害者施策推進協議会で取り上げられることとなります。

※参考 図：平成29年度南アルプス市障害者自立支援協議会体制図 p 4 掲載

●平成29年度の活動概要

本年度は、南アルプス市に必要な支援体制を整えていくための指標や基盤となる障害福祉計画や、当事者がより安心して暮らすために必要な機能を整える地域生活支援拠点など、相談支援体制整備において重要となるテーマを協議しました。当事者や家族のより暮らし、安心感のある地域生活の実現に向けて、大きな意味を持つ一年になったといえます。

障害者虐待防止体制づくりを目指す権利擁護部会では、虐待に関する事例の個別支援会議の場で必要な視点や技法の検証や、支援者のメンタルヘルスに関する研修の開催などに取り組みました。精神科病院における社会的入院の解消と予防に取り組む地域移行部会では、長期入院患者との面会の実施、面会結果に基づく個別支援、地域移行支援に関する研修の開催など、具体的な活動が展開されました。計画相談支援事業所連絡会や居宅介護支援事業所連絡会においても、情報の共有や課題解決に向けた具体的な活動が展開されました。障害福祉サービス事業所合同説明会は、当事者の自己選択や自己決定の権利に関わる貴重な場となりつつあります。

この報告書では、本年度の南アルプス市障害者自立支援協議会の動きをお伝えします。協議会の委員だけでなく、当事者や家族、支援関係者の様々な形での協働を得る中で、活動が展開された一年。本年度の成果と課題を次年度に活かしながら、今後も南アルプス市の相談支援体制整備に努めます。

協議会ダイジェスト

平成29年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト

-協議会の司令塔、地域の福祉課題の解決に向けたアイデア出し、専門部会の進捗管理-

定例会

●定例会について

- ・一人の当事者の困り事や支援者の抱える支援の困り感から見えた地域の福祉課題について、課題解決に向けた方策を協議します。
- ・地域の福祉課題についての協議の他、専門部会や連絡会の動きを進捗管理する機能により、自立支援協議会の核となる役割を果たしています。

●この1年の動きや出来事

- ・当事者の安心感のある暮らしの実現には、本市における緊急時の対応や相談、居住支援などの機能や仕組みを整える必要があることから、新規の専門部会として地域生活支援拠点部会を設置しました。
- ・本市における障害福祉計画と障害児福祉計画の策定に向けて、新規の専門部会として障害福祉計画部会を設置しました。
- ・4つの専門部会の活動について進捗状況を共有し、より具体的で実行性のある活動につなげるための協議を進めたことで、協議会の司令塔としての機能が果たせました。
- ・地域生活支援拠点部会での議論に基づく本市における地域生活支援拠点の整備計画案、障害福祉計画部会の議論に基づく第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画について協議を重ね、協議会としての合意形成を図ることができました。
- ・新規の委員として、新規の専門部会の部会長の他、各連絡会の会長が参画し、協議を進めました。

●次年度の活動

- ・事例検討の場を機能させることを前提として、事例検討から見えた地域の福祉課題について協議できるようにします。
- ・地域生活支援拠点の整備を軸に、本市の相談支援体制の充実と強化を目指した協議を展開します。

●委員

会 長：鴨作（相談支援センターカマラド）
副会長：田中（生活支援センタークローバー）
委 員：塩澤（障害者施策推進協議会会長）
上田（障害者施策推進協議会副会長）
有野（相談支援センターカマラド）
飯室（中北圏域マネージャー）
小林（マハロ）
中村（やさしい手南アルプス事業所）
中澤（福祉総合相談課相談支援担当）
河野（福祉総合相談課地域福祉担当）



※地域のコアメンバーで、地域の福祉課題を協議する

平成29年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト

専門部会

-地域の福祉課題を解決する-

権利擁護部会

●権利擁護部会について

- ・虐待防止を主眼として、市の体制や福祉現場の支援の質の向上について考えることを趣旨として、立ち上がりました。
- ・ファシリテートできる人材の育成を行っていくことや、障害者福祉従事者の実情に即し、実践へ効果的に還元されることを意図した研修の企画を行いながら、南アルプス市の障害者虐待防止体制の在り方をまとめます。

●この1年の動きや出来事

- ・本市の権利擁護体制を支援者の視点より協議することを意図し、今年度より市内の障害福祉サービス事業所より2名が当部会に参加しました。
- ・障害者虐待通報案件に係る会議に、安心づくり安全探しアプローチ（AAA）研究会の手法を取り入れ、問題解決に向けた実践を行いました。
- ・障害福祉援助職を支援することを目的とし、お互いの実践や悩みごとを共有しあう『より良い支援につなげる座談会』を実践しました。第1回目は特別企画として、山梨県立大学の山中達也先生をお招きし、支援者のメンタルヘルスをテーマとした研修を行いました。
- ・南アルプス市障害者虐待防止センターの機能強化に向け、障害者虐待防止センターの現状を共有しました。今後も動向を注視しながら、障害者虐待防止センターの体制強化に向けた協議を行います。

●次年度の活動

- ・障害者虐待防止従事者向け研修を企画・実施します。
- ・安心づくり安全探しアプローチ（AAA）研究会の手法を基に問題解決に向けた実践を継続します。
- ・支援者のニーズに基づいた研修を企画する為、事業所へのニーズ調査の実施を検討します。

●部会員

部会長：鴨作（相談支援センターカマラド）
部会員：宮下（障害福祉課自立支援担当）
中澤（福祉総合相談課相談支援担当）
新藤（県立梨の実寮）
菊原（ワークハウスみどりの家）
事務局：望月（障害福祉課自立支援担当）
窪川（障害者相談支援センター）
中村（障害者相談支援センター）



※8/1開催 より良い支援につなげる座談会特別講座

専門部会

-地域の福祉課題を解決する-

地域移行部会

●地域移行部会について

- ・精神科病院に長期入院されている方の地域生活への移行と長期入院の予防に取り組んでいます。
- ・地域生活への移行に向けた実際の支援を通して支援のモデルを作ること、南アルプス市として地域移行を推進するための体制を整えること、医療と福祉の連携体制を構築することを目標にしています。

●この1年の動きや出来事

- ・精神科病院（以下病院）に長期入院されている2名の方の支援に部会として取り組みました。1名は精神症状悪化から終了となりましたが、1名は病院からの退院が決まりました。
- ・昨年度に実施した実態調査から病院に1年以上入院をしている方が45名であることが分かりました。今年度は病院を訪問して入院患者に会い希望や意向、状況等を調査しました。その中で地域移行支援の制度利用に繋がった方もいます。
- ・実態調査や病院訪問を通し入院患者や家族の高齢化が顕著になっていることが改めて分かりました。高齢の精神障害者の地域生活には高齢分野との連携や協働が必要と考え、障害・介護の関係者と共同で高齢精神障害者の事例検討を行いました。
- ・精神障害者や家族の高齢化への取組の継続やピアサポーターが活躍できる地域作りを目指し、高齢精神障害者プロジェクトチーム、ピアサポートプロジェクトチームを立ち上げました。

●次年度の活動

- ・病院訪問で入院患者との面会を継続します。次年度は地域移行支援の情報を入院患者に届けます。
- ・高齢精神障害者プロジェクト、ピアサポートプロジェクトを進め病院から安心して地域移行ができる体制や地域作りをしていきます。

●部会員

部会長：有野（相談支援センターカマラド）

部会員：上田（峡西病院）

東條（県立北病院）

渡邊（相談支援センターカマラド）

久保（きづな）

坂本（きづな）

清水（地域包括支援センター）

事務局：田中（障害福祉課自立支援担当）

中村（障害者相談支援センター）

和泉（障害者相談支援センター）



※ 高齢精神障害者の事例検討会

29/11/15 開催

平成29年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト

専門部会

-地域の福祉課題を解決する-

障害福祉計画部会

●障害福祉計画部会について

- ・平成30年度から3カ年の第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画を策定することを趣旨として立ち上がりました。
- ・コンサル業者への策定支援業務の委託を行わず、本部会を策定主体としました。支援者や当事者の幅広い参画を図り、関係者がこの計画をより身近に感じ、関心と主体的意識を持ってもらえるよう取り組みました。

●この1年の動きや出来事

- ・年度内9回の部会活動を経て、第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画の素案作成を行ないました。
- ・市町村障害福祉計画の位置づけ、国の指針に記載された事項の確認、平成30年度から新設されるサービス等の確認を行い、この計画に対する理解を深めることから始めました。
- ・当事者や保護者に対して実施したアンケートの内容検討、分野別支援関係者座談会の開催企画、座談会の運営を行い、当事者や現場の支援者の声を反映するための協議を重ねました。
- ・アンケートや支援関係者座談会の結果を振り返り、計画に盛り込むべき事柄について意見を出し合い、計画素案をまとめました。

●次年度の活動

- ・計画策定が完了した時点において本部会は終了

●部会員

部会長：小林（マハロ）

部会員：河野（県立梨の実寮）

横内（みらいコンパニー）

中村（やさしい手南アルプス事業所）

時田（相談支援センターカマラド）

中村（障害者相談支援センター）

和泉（障害者相談支援センター）

オブザーバー：飯室（中北圏域マネージャ）

事務局：宮下（障害福祉課自立支援担当）

志村（障害福祉課自立支援担当）

河野（福祉総合相談課地域福祉担当）



平成29年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト

専門部会

-地域の福祉課題を解決する-

地域生活支援拠点部会

●地域生活支援拠点部会について

- ・相談支援体制の充実と強化を図るために、南アルプス市に必要な地域生活支援拠点の機能を協議し、地域生活支援拠点の整備に向けた市への提言を目的としています。
- ・地域生活支援拠点とは、入所施設や病院からの地域生活への移行や、緊急時や「親なきあと」の暮らしを支えるために必要な相談支援や居住支援の機能について整備するものです。
- ・国や本市の障害福祉計画で、地域生活支援拠点の整備が掲げられています。

●この1年の動きや出来事

- ・本市における地域生活支援拠点では、緊急時の支援を含む相談の機能が重要であるとしました。
- ・緊急時を含む相談は、24時間365日の体制や手厚い人員体制が確保されている特定加算の相談支援事業所、緊急時の支援を提供する地域定着支援事業所による提供が望ましいと結論づけました。
- ・上記の事業所には、コーディネーターを配置して緊急時に対応するとともに、緊急事態発生の予防や再発防止に努めるものとしました。
- ・相談の機能を中心とする本市の地域生活支援拠点は、平成30年度末までの整備を目指します。
- ・地域生活支援拠点は本市の相談支援体制の充実と強化であることから、障害者相談支援事業や基幹相談の実施体制についても協議を進めています。

●次年度の活動

- ・相談の機能に関する具体的な内容や体制について協議を進め、市に提言します。
- ・地域生活への移行や単身生活に向けた体験の場の確保、重度障害にも対応できる人材の育成等、地域生活支援拠点に必要とされる各機能についても協議し、本市の相談支援体制の充実を目指します。

●部会員

部会長：塩澤（育精福祉センター成人寮）

部会員：秋山（ケアセンターまた明日）

有野（相談支援センターカマラド）

鴨作（相談支援センターカマラド）

田中（生活支援センタークローバー）

菊原（レーベン）

飯室（中北圏域マネージャー）

事務局：宮下（障害福祉課自立支援担当）

田中（障害福祉課自立支援担当）

和泉（障害者相談支援センター）

窪川（障害者相談支援センター）

中村（障害者相談支援センター）

平成29年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト

連絡会

-同種の事業所間による情報共有、ネットワークづくり-

計画相談支援連絡会

●計画相談支援連絡会について

- ・計画相談支援・障害児相談支援の円滑な提供に向けて、市内の指定特定相談支援事業所の相談支援専門員が集まり、月1回開催している連絡会です。
- ・情報共有や意見交換を通じて相談支援専門員が抱え込まず、困り感や解決したいことを共有しお互いに支えあっていく場です。

●この1年の動きや出来事

- ・3カ月に一度コアメンバーで話し合いを行い3カ月前の協議内容を検討し、「ストレングス出しをしてみよう」、「災害時の対応について」などその時々で支援員が思っている課題やテーマをグループワークしたり、障害福祉計画作成にあたる計画相談業務の課題とアイデア出しを実施しました。
- ・また前年度に引き続き、①教育連携②多職種連携③他地域連携の3つのプロジェクトチームを作り、日頃の業務の中から生じたニーズの解消に向けて取り組みました。
 - ①教育連携 …学校向けのチラシ作成や各学校訪問、途切れのない支援会議に参加しました
 - ②多職種連携…昨年のアンケートから精神科病院との連携のため峡西病院見学を実施しました
 - ③他地域連携…昨年度の峡北・峡南・南アルプスと新たに富士東部を加え合同連絡会実施しました
- ・また、自立支援協議会で取り組んでいる福祉就労事業所合同説明会を今年度も実施し、市内の就労事業所と生活介護事業所が説明会を行い、日中活動先を検討していただく場を計画相談員も一緒に取り組ませていただきました。また、平成30年度の法改正にあたり当事者が福祉サービスの利用や知る機会を増やしていけるよう計画相談員の体制を市全体で作っていく勉強会を実施しました。

●次年度の活動

- ・前年度と同様に、3か月単位でその先の実施内容について検討し、その時ホットな話題について取り上げる等、自立支援協議会との連動を意識した会としていきます。

●メンバー

会長：相談支援センターカマラド

副会長：クローバー

会員：きづな ケアセンターまた明日

あすなる ともろうなんでも相談室

ドリームハート レーベン

ひなたぼっこ ぽけっとはうす

障害福祉課

障害者相談支援センター



※計画相談支援連絡会の会議の様子

平成29年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト
連絡会

-同種の事業所間による情報共有、ネットワークづくり-

居宅介護事業所連絡会

●居宅介護事業所連絡会について

- ・訪問系（居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護）のサービスを行なう居宅介護事業所が、相互の連絡調整、学習の場の企画等を目的に、隔月1回開催している連絡会です。
- ・サービス提供責任者のスキルアップを図り、サービスの質の向上を図ります。

●この1年の動きや出来事

- ・偶数月に居宅介護事業所が集まり、情報収集や困り事などについて意見交換をしました。その中で他の障害福祉サービス（以下サービス）を知ることで利用者との会話の広がりやサービスの紹介ができるとの意見から就労継続支援B型「たいよう」の施設見学を行い、働くことのサービスを学びました。
- ・リカバリーレンジャー（障害当事者3名、スタッフ4名）を招き、前年度開催できなかった「精神障害者支援の大事な視点」を開催し、精神障害の支援で大事な視点について学びました。
- ・障害福祉計画作成に向けた支援者の座談会に参加して、成果（できていること）や課題（困っていること）を出しながら、できていることをより良くするためのアイデア、解決するためのアイデアを出し合いました。

●次年度の活動

- ・居宅介護事業所連絡会に参加する事業所が限られることや参加人数が少ないことを踏まえ、次年度は連絡会の在り方を見直します。居宅介護事業所を巡回して各事業所の連絡会に対する意見や希望等を聞き取りながら存続に関して協議会などで協議をしていきます。

●メンバー

会長：やさしい手南アルプス事業所

会員：ライフサポートなごみ

あおぞらヘルパーステーション

楓ケアサービス

ケアポートアトム

さくら訪問介護

ヘルパーステーションあらぐさ

南アルプス市社会福祉協議会居宅介事業所

HAND IN HAND

生活支援センターなしのみ

障害者相談支援センター



※ 就労継続支援B型「たいよう」の施設見学

29/12/21 開催

障害福祉サービス事業所 合同説明会

●障害福祉サービス事業所合同説明会について

- ・障害福祉サービス事業所合同説明会（以下説明会）を通し、障害福祉サービス（以下福祉サービス）の利用を考えている方や保護者が、サービス提供者から直接情報を収集できる機会を作りました。説明会が利用者の自己選択・自己決定・自己実現の機会となるようにしていきます。

●この1年の動きや出来事

- ・昨年度、初めて市内の就労支援事業所の協力を得て説明会を開催しました。その時のアンケートから継続して説明会を開催して欲しい、生活介護事業所の説明も聞きたいとの要望があり、今年度は生活介護事業所の協力も得て平成30年2月3日（土）に説明会を開催しました。
- ・支援学校の学生や保護者の来場が増えるよう、今回の説明会からあけぼの支援学校、わかば支援学校の先生も実行委員になって頂き、全生徒にチラシの配布を行うなど協力を頂き広く周知をしました。
- ・来場者が事業所を選ぶ際の参考となるように活動内容などが入った事業所紹介を作成しました。
- ・説明会を通して福祉サービスの利用につながるケースもあり、説明会が利用者の自己選択・自己決定・自己実現につながっています。

●次年度の活動

- ・他市との共同開催も含めて、説明会をより多くの方に利用して頂けるよう、開催時期や方法等を再考します。又、事業所紹介を冊子にして相談支援専門員等が事業所案内の際に活用できるようにします。

●メンバー

会長：ケアセンターまた明日

会員：山梨県立あけぼの支援学校

山梨県立わかば支援学校

中北圏域マネージャー

たいよう

生活支援センター クローバー

レーベン

きづな

ぼけっとはうす

障害福祉課

障害者相談支援センター



※ 障害福祉サービス事業所合同説明会

30/2/3 開催

南アルプス市障害者施策推進協議会

●障害者施策推進協議会について

- ・南アルプス市は、障害者基本法の規定に基づいて、障害者施策協議会を設置しています。
- ・障害者団体や関係機関の代表者等が委員として参画しています。
- ・南アルプス市の障害者施策の進捗状況の評価や、推進のための方策について協議します。同時に、自立支援協議会で協議され施策化が必要な事項について、市への提言につなげる場となります。

●平成29年度の協議事項

- ・南アルプス市の障害者施策について
 - ① 基幹相談支援センターの機能強化
 - ② 南アルプス市途切れのない支援連携会議の推進
 - ③ 障害に対する理解促進・啓発
 - ④ 障害のある人が働けるまちづくり
- ・第5期障害福祉計画及び第1期障害児福祉計画の策定状況、素案について
- ・南アルプス市障害者自立支援協議会の活動について
- ・南アルプス市における地域生活支援拠点の整備について

●主な意見

- ・自立支援協議会の成果が私たちの生活に反映されているのか、目に見えて分からない。自立支援協議会について、わかりやすい発信・周知があれば、私たちも課題を伝えていくことができる。
- ・ライフステージを通じて途切れのない支援体制を整えるための協議の場があることは、把握していなかった。取り組みの状況が広く周知されると保護者も安心できる。
- ・重度障害のある方が、入所施設から地域生活に移行するための基盤が整っていない。共生社会の実現も踏まえれば、地域で支え合う関係性の構築や、障害に対する理解の促進も必要である。
- ・教育現場で偏見や差別を受けたという結果が出ている。教育との連携において理解促進・啓発に関する施策が必要である。
- ・地域移行や一般就労への移行は、受け皿となる地域や企業等として何が課題となっているかを明らかにしておくことは、目標達成のために必要である。
- ・地域生活支援拠点で「体験の機会」の機能がある。重度障害のある方でも、支援を受けながら地域生活を送ることができる。今後、対応可能なグループホームの整備や体験の機会の確保を期待したい。

●承認された事項等

- ・第5期障害福祉計画及び第1期障害児福祉計画の素案について、承認されました。
- ・南アルプス市における地域生活支援拠点の整備については、素案をベースに更なる議論を進めていくことが確認されました。

●今後に向けて

- ・南アルプス市の障害者施策について、年度ごとの進捗状況の評価を進めます。評価を進める中で、議論すべき事項について議題として取り上げていきます。
- ・自立支援協議会との連動を強化し、南アルプス市の障害者施策の推進に取り組みます。

●委員

区分	氏名	所属・役職等
関係行政機関の職員	土橋 信也	山梨県中北保健事務所峡北支所 次長
関係行政機関の職員	栞原 和政	甲府公共職業安定所 所長
学識経験のある者	戸澤 英子	南アルプス市民生委員・児童委員協議会 副会長
学識経験のある者	伊藤 千晶	社会福祉法人南アルプス市社会福祉協議会 地域福祉課長
学識経験のある者	○上田 譲二	特定医療法人南山会峡西病院 コメディカル部マネージャー
学識経験のある者	跡部 和男	県立わかば支援学校 校長
学識経験のある者	飯室 正明	山梨県相談支援体制整備事業 中北圏域マネージャー
障害者の代表	甘利 紘	南アルプス市障害者福祉会 副会長
障害者の代表	榊原 佳美子	南アルプス市視覚障害者福祉会 事務局長
障害者の代表	神宮寺 恭子	南アルプス市聴覚障害者協会 副事務局長
障害者の代表	川野 みどり	中巨摩心身障害児（者）父母の会 監事
障害者の代表	半田 加菜子	彩の会 - Sai コミュニティ - 代表
障害者の代表	中込 理恵子	南ぶすねっと保護者のつどい
障害者の代表	大塩 美千子	特定非営利活動法人ほほえみの会 副理事長
障害者の福祉に関する事業に従事する者	◎塩澤 一夫	社会福祉法人山梨県手をつなぐ親の会 県立育精福祉センター成人寮 所長
障害者の福祉に関する事業に従事する者	久保 志津子	特定医療法人南山会 地域活動支援センターきがる館 館長 相談支援事業所きづな 管理者
障害者の福祉に関する事業に従事する者	横内 幹	社会福祉法人さかき会みらいコンパニー 所長
障害者の福祉に関する事業に従事する者	松田 敬人	社会福祉法人青い樹の会 ワークハウスみどりの家 管理者
障害者の福祉に関する事業に従事する者	久保川 忠	特定非営利活動法人ジョブクリエイター ジョブスペースかけはし 理事長
障害者の福祉に関する事業に従事する者	望月 和夫	社会福祉法人山梨県手をつなぐ親の会 生活支援センタークローバー 管理者

◎…会長 ○…副会長